

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	西田 麗
	主査	准教授	平野 聡
審査担当者	副査	教 授	浅香 正博
	副査	教 授	佐藤 典宏
	副査	教 授	松居 喜郎
	副査	教 授	櫻木 範明

学 位 論 文 題 名

Evaluation of Small Bowel Blood Flow and Mucosal Injuries in Healthy Subjects with Low-Dose Aspirin (健康者における低用量アスピリン投与時の小腸血流と粘膜傷害の検討)

低用量アスピリン(low-dose acetylsalicylic acid : LDA)は高齢化社会を迎え汎用される一方、副作用としての消化管傷害が注目され、さらに小腸傷害にも関心が高まっている。本研究は健康人ボランティアにLDA投与時の粘膜傷害と小腸血流をカプセル内視鏡と体外式造影超音波検査を用いて検討し、レバミピドの予防薬としての効果を評価した。

審査会では学位論文内容の発表後、副査櫻木教授からエコーを用いた消化管粘膜血流評価の報告の有無とドップラー検査との比較検討が必要との意見が提示された。次いで副査松居教授からエコーの再現性についての質問があった。次いで副査佐藤教授から、エコーの方法論を確立後に検査をすべきとの指摘や、有意差検定方法と図表表記にずれがあるとの指摘、症例数が少ないという指摘があった。次いで副査浅香教授から、健康人での結果を臨床応用する意義、胃と小腸病変の推移について、レバミピドを選択した理由についての質問があった。主査平野准教授からは、エコー検査の詳細とカプセル内視鏡検査の精度について質問があり、クロスオーバー試験についてのコメント、小腸粘膜血流減少の機序につき質問があった。櫻木教授から、不育症等へのLDA投与に対する言及があった。申請者は得られた研究データや文献的知見を引用し概ね妥当に回答した。

この論文は World Journal of Gastroenterology 2011 January 14; 17(2): 226-230 に掲載され、Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition (2011)に accept されており臨床応用が期待されている。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。